

第 16 回岡山県経済戦略会議概要

日時：令和 6（2024）年 8 月 26 日（月）15：30～17：25

場所：ホテルグランヴィア岡山 3 階 パール

○意見交換テーマ 「第 4 次晴れの国おかやま生き生きプラン（仮称）について」

<開会挨拶>

【知事】

- ・この経済戦略会議では、経済界の代表の皆様から、大変重要な御示唆をいただいている。
- ・今回のテーマである「第 4 次晴れの国おかやま生き生きプラン（仮称）」に限らず、県に共有すべきことなど、何でも御意見をいただきたい。

<第 4 次晴れの国おかやま生き生きプラン（仮称）の説明>

<意見交換>

【経済団体】

- ・産業戦略の何に重点を置くかは非常に重要で、今後は観光業やヘルスケア産業といった分野に重点を置くべきだ。
- ・特に観光業が非常に重要で、瀬戸内海での観光に重点を置いていくべきだ。欧米など海外からの富裕層に特に来てもらいたい。その仕組みを作るために、例えば欧米系のホテルチェーンや高級ホテルの誘致が必要だろう。そしてアドベンチャーツーリズムやサイクルツーリズムなど、滞在型の観光につなげることが必要だ。
- ・岡山には岡大医学部、川崎医大がある。ヘルスケアを産業として研究開発からさまざまな事業を生み出していけば、チャンスはいくらでもある。
- ・岡山がイノベーションに積極的なことをアピールすれば、若いベンチャーの人たちは集まってくる。彼らはお金だけが目的で来るわけではなく、イノベーションに取り組む風土があるところにどんどん来てくれる。
- ・農業や漁業を家族経営で継続していくのは難しい。高齢化が進み、10 年後には就業者がいないのではないかと。事業化、企業化が必要で、そうしないと問題は解決しない。
- ・工業団地について、県内の使われていない農地を転用し、工業用地として活用すべきだ。最近では工事代が上昇していることもあり、タイミングが非常に重要だ。ぜひ早く工業用地としても活用できるように認めてもらい、全国から企業を誘致するべきだ。

【知事】

- ・観光については、富裕層をターゲットに、せとうちDMOで取り組んでいる。外国人観光客が増えオーバーツーリズムの問題もあるので、観光客 1 人当たりの利益を増やすためには、富裕層に来てもらうことは非常に重要だ。富裕層はどこの地域からもラブコールが来るので競争は厳しい。その高い要求水準に応えられるサービスを提供できるかが

非常に大事だ。

- ・企業誘致で言えば、補助金を出して工場を誘致し、雇用が生まれ、納税につながってきた。それと同じ形で、高級ホテルを誘致することを拒むものではない。ただ、協力する姿勢はあるが、誘致のために補助金を出すところまで決断できていない。もし皆さんの企業で外国の高級ホテルチェーンと組んで投資するのであれば、それは大歓迎で、産業労働部が真剣に御相談に乗らせていただく。
- ・イノベーションについては、吉備高原オープンイノベーション協会など経済団体でも取り組んでもらっており、本当にありがたい。
- ・農地転用について、工場誘致を考えるとときに、耕作放棄地でも「これは優良農地だから駄目」と断られる。皆様からも声を上げてもらい、我々の財産である地域の土地の使い方については、我々で決めさせてほしいということを、県庁だけではなく、岡山県のあらゆる層から国に訴えていきたい。

【経済団体】

- ・8/14 山陽新聞には「業況 2 期連続悪化、物価高で個人消費減速」とあったが、8/16 日本経済新聞には「GDP 年率 3.1% 増、消費が改善」と掲載されていた。大企業を見るか、中小企業を見るかによって格差がある。
- ・都市部と地方でも同じ傾向がある。東京を中心とする一部地域の商工会議所以外は、みんな東京一極集中と人口減少に悩んでいる。天野 馨南子（あまの かなこ）氏は、「地域から人口が減っているのは女性が減っているからだ」と指摘されている。地域から女性が出ていく年齢は、22 歳から 18 歳まで、つまり大学卒業時、短大卒業時、高校卒業時で、その行き先は大都会だ。なぜかという、地方に就職先がないことが一番大きな原因だ。岡山県の場合、統計上男性より女性が 1.5 倍も県外へ出ている。地域から女性が出て行かないためには、地元の経営者が女性に魅力のある経営をすることが重要だ。
- ・第 4 次プラン骨子案の重点戦略Ⅰが「結婚・子育ての希望がかなう社会の実現」だが、そもそも女性がいなくなったら結婚も子育てもできない。したがって重点戦略Ⅲの「地域を支える産業の振興」、これを一番にやらないと重点戦略Ⅰはありえない。もちろん企業の誘致や投資もいいが、地元企業がどう稼いでいけるかが一番重要だ。身近なところで取り組んでもらいたいのは「観光振興プログラム」で、骨子案に書いてあるとおりだ。順番を考えて対策しないと女性は県外に出ていく。まずそこを直接的に防ぐべきだ。
- ・岡山県の中では、岡山市一局集中になっている。中国 5 県の中でも岡山市は人が集まってくるが、中山間地域は厳しい状況なので対策が必要だ。中山間地域に大規模工業団地を誘致するとか、あるいは農地転用するとか、むしろ農地を集めて集約的な農業をするとか、今は全てコンピューターで管理する農業が十分可能だ。岡山市を除く県内の人口が急激に減少していて、人口が少なく土地があるところをどう活用していくのか。産業化する、あるいは農業化する、どういう施策を行うのか考えてもらいたい。
- ・中国山地の水源となる土地を中国人が取得しているという話をよく聞く。表面上は日本人が買っているのかもしれないが、実態はそうらしい。水源を含む土地については、例えば民家を取得しない限り売買を認めないとか、条例で規制すべきだ。将来的に水源が枯渇する状況も考えられるので、その調査をしてもらいたい。

- ・中小企業、小規模事業者の今後について、法人化やM&Aを進めないといけない。私ども商工会議所も中小企業を維持させることに注力してきて、それが正義だと思っていたが、デービッド・アトキンソン氏が指摘するように、中小企業は生産性が低すぎるのかもしれない。中小企業が生きていく道として、法人化するか、あるいは違った技術を持つものが一緒になって力を発揮して生産性を高めていくか、どちらかの方法ではないかと思う。
- ・岡選手が金メダル3つとられた。岡山のスポーツが本当に盛り上がっており、スポーツ産業を通じたまちづくりを考えていくべきだ。スポーツを中心とする健康産業という旗を立てれば、スタートアップ企業が集約し、岡山が健康産業のメッカになることができる。

【知事】

- ・私も天野馨南子氏とデービッド・アトキンソン氏の本を読むのが大好きだ。山陽新聞でも天野氏の「まちがいだらけの少子化対策」が取り上げられた。非常にわかりやすく少子化対策の問題点を指摘している。トップミーティングの挨拶でも引用し、女性が流出する地域は、まず最初の段階でものすごいハンディを背負うということ、子育て支援はそれ自体非常に大事なことではあるものの、少子化対策にはまず結婚対策が必要であるということについて、27市町村長に問題提起した。女性が出ていかない地域を作っていく、そして、結婚できる環境を整えていくことが、岡山県の少子化対策にとって一番大事だ。これができるかどうかで、20年後、30年後の岡山の景色は本当にガラッと変わる。だからこそこの第4次プラン骨子案では、少子化対策で新しい重点戦略を立てている。具体的な施策とすれば、いかに女性に選ばれ、若者に就職してもらい、結婚できる岡山にするのかということだ。
- ・デービッド氏は、データを普通に読むとこうなる、各国の様子と比べ合わせるとこうなる、という非常にアクションに結びつきやすい提言をしてくれるので、本当にすごい方だなと感じている。
- ・M&Aについての考えは皆さんと一緒に。後継者のいない会社の多さを見ると、従業員の雇用を守る観点でも、M&Aは進めないといけない。農業従事者の平均年齢も高くなっており、維持が困難になってきている。改善を含めた対策として、M&Aは非常に有力な手段だと思う。
- ・東京一極集中は我々知事が声高に問題だと言っているが、地元では岡山市一局集中のようなことが起きている。ぜひそれぞれの地域で、幸せを感じられるようにしていきたい。中四国で言えば岡山市は大都市に見えるので、四国や山陰からの受け皿になっているのも事実で、うまく生かせるところは生かしていきたい。

【経済団体】

- ・知事は当初から教育再生と産業振興に力を入れ、その2つでは成果も出ている。次期プランでは新しく少子化対策を重点戦略に追加するということで、理にかなっているとは思いますが、これまでの教育と産業のように目に見えた成果を上げるのは難しいのではないかと。
- ・全国でも岡山県でも生産年齢人口がピークアウトしたのは1995年頃で、以降30年間は減り続けている。女性が働くことは素晴らしいこと、経営のリーダーになるのは素晴らしいことだが、経験的に感じるのは、女性の学歴が高くなるにつれ、出産する子どもの人数

も減っている。

- ・ある自治体は、人口 5 万 3000 人ほどに対して出生数は 200 人ほどである。その 200 人の就職先として、役所や医療関係、農協などにいくと、産業界にどれだけきてもらえるのか考えると恐ろしい。県北はさらに厳しい状況で、学校経営などどうするのか私には皆目相当がつかない。それが既に起きている現実で、取り組むことは正しいのだが、実はもう 30 年も前から大変なことが起きている。

【知事】

- ・12 年前、教育と産業は改善できると思い県庁に入った。第 4 次プランでは、少子化対策を教育、産業に並ぶ大きな柱にしようとしている。劇的に改善できる見込みがあるから追加するのではないが、これは絶対に無視してはいけないものだ。これまで、子どもの数が少ないからといって、団体が対策を強く要望するとか、首長の再選が危うくなるようなことが起きなかった。本当に大事なことだが、ついつい後回しになってきた。
- ・生産年齢人口が 1995 年にピークを迎えたが、当時はそれを指摘して議論した人がほぼいなかった、もしくはその人たちに注目が集まることがなかったというのは、今から考えると反省点である。
- ・女性の学歴について、アメリカでは大学のキャンパスでベビーカーを見るのはそんなに不思議なことではないが、日本では本当に珍しいことだ。大学生、大学院生が結婚して子ども生んでも全く悪いことはない。高学歴の女性でも勉強しながら、仕事しながらどんどん子どもを生んでほしい。それをサポートできる体制づくりを進めないといけない。
- ・今起きていることよりもっと大変なことがこれからそれぞれの地域を襲うだろう。それがどんどん広がるのか、それともどこかで底を打って元気になっていくのかは、これからの我々の努力次第だ。

【経済団体】

- ・第 4 次プラン骨子案に「さまざまな主体との連携・協働」とあるが、本当にこれを進めるのであれば、プランの計画段階からさまざまな主体が参画すべきだ。特に少子化対策は、当事者になる中学生、高校生、大学生に考えてもらうこと必要ではないか。
- ・中学生、高校生を巻き込み、多様な人とともに、地域の将来像や政策を議論するプラットフォームが、このプランの策定過程にあってもいい。特に長期構想や地域別構想について、2040 年代半ば、彼らが 30 代、40 代になるときに、彼らがどんな将来を描きたいのか議論する場を設けることが重要だ。
- ・第 4 次プラン骨子案は「市町村との連携強化、ボランティア・NPO 等との連携・協働等」とあるが、これには産業界や学校なども入るだろう。やはり地域の高齢者から若い人までが一緒になって、施策を考える場をぜひ設けてもらいたい。それぞれ県庁の各部局はいろんなところで意見交換しているが、実際に実行するのは県だけではできない。みんなが実行しようと思うと、自分たちも参画して作ったとなれば責任持つことになる。この関係がないと、あの計画は県の計画でしょ、となって一緒に動く気にならない。作る段階で一緒にやるという仕掛けが必要ではないか。
- ・高校生で探究活動をやると積極的なのは女性だ。その女性の中には、これを学校内だけで

留められるのは面白くない、社会に発信して実装したいという思いの人がいる。彼女らの思いを受け止めて、議論に参画してもらうことで、地域に残ってもらえるのではないかな。

- ・おそらく女性が地域から出ていくのは、男性中心の田舎社会では息苦しく、自由な都会の方が自分の可能性を追求できるからではないか。地元の地域でもっと活躍できること、自分で住みやすく変えていけると思えることが非常に重要ではないか。

【知事】

- ・私が最初に生き活きプランを作るとき、2週間から1ヶ月程度で作るのかと思ったが、1年もかけるということで非常に驚いた。議会の承認や関係団体の意見聴取、パブリック・コメントなどがあって1年もかけている。
- ・幹部を含む県職員がさまざまな会議に出て、その内容を庁内で共有する。県庁で何か方針を出すときには、それまでに教えてもらい、聞き取ったことが中に練り込まれているが、そのことが外部からは見えていないと思う。そういうプロセスを見せる、伝える努力も必要なのかもしれない。そもそも地域や県政に興味がなければ、いくら発信しても伝わらないので、興味を持つ人を増やすことも大事だ。
- ・いかに女性に自主的に地域に残ってもらえるかで、本当に地域の運命が決まる。地元では息苦しい、もしくは外の方が楽しい人生を送れると思われているからこういうことが起きているのかと反省するところだ。
- ・各企業における取組として、各業界団体の傘下の企業が協力してもらえるかどうかで、女性にとって働きやすい仕組みもしくは雰囲気になる。ここは経済人の皆様方の腕の見せ所でもあるので、ぜひとも協力をお願いしたい。
- ・人口戦略会議の冒頭挨拶にあったように、この10年は各自治体が人の引っ張り合いにエネルギーを割いたが、国全体ではゼロサムゲームだった。社会増の取組を否定しないが、自然増のための取組がもっと必要だ。岡山県も両方取り組むが、自分たちの地域を良くしたい、そのために関わりたいという若い人、特に女性を増やさなければいけない。

【経済団体】

- ・「新資本主義のグランドデザイン及び実行計画」の中に大きなテーマが3つある。1つ目が「新たな官民連携」、2つ目が「課題解決を通じての新たな市場の創造、すなわち社会的課題解決と経済成長の二兎の実現」、3つ目が「課題解決を通じて一人ひとりの国民の持続的な幸福の実現」である。具体的には、労働者の賃上げの定着、企業の参入・退出の円滑化、社会課題解決のためのシステム構築などである。そのためには社会や地域の活性化が重要になる。
- ・一方、第4次プラン骨子案は2040年半ばを展望して、少子化対策、教育、産業などのテーマを挙げて、その対策を描いている。その手段として、さらなる大学の活用が必要ではないか。岡山には18の大学があり、学生も多いが実は先生の数も多い。3,900人の先生がいて、人数では日本で14番目、人口当たりでは7番目だ。これを活用すべきで、3点お話したい。
- ・1つ目は、イノベーションを創出するための大学の活用だ。地方では、革新的な技術と知の創出の中核的な存在になるのが大学なので、もっと活用しないといけない。

- ・ 2つ目は、その知を利用するためには組織が必要だ。岡大や県大にはそういう組織があるが、私立大学にはないので、県で仕組み作って推進した方がいい。
- ・ 3つ目は、お金だ。大学に取り組んでもらうなら、金銭によるフィードバックをすることで、さらに活性化していく。単に大学から知識を得るだけではなく、大学を育て、地域での活動を応援することが大事だ。
- ・ その他、PTAとは別で、親父の会を活用するのもいい。全国的にも地域の活性化に繋がっているという話をよく聞く。また、岡山は通信ネットワークが整備されているので、デジタルノマドを呼び込むことで地域の活性化を図ることもできるのではないかな。

【知事】

- ・ 他県よりアドバンテージがある大学、学生、先生の多さをうまく生かしてより元気な岡山にしていきたい。課題解決に向けてこれまでと違う努力、やり方も含め考えていきたい。
- ・ イノベーションを生み出す仕組みについて、これまで岡山大学とも連携して取り組んでいき成果も出ているが、まだ小ぶりなものなので、引き続き頑張っていく。
- ・ 私の娘の高校、大学でも親父の会があっていろいろと活用されていた。デジタルノマドはまだいい活用例がないが、すごく楽しい分野なので、何とか成果を出したい。

【経済団体】

- ・ 第4次プランに掲げるスケジュールや数値目標を実現してもらいたい。「脱炭素化推進プログラム」では県民や企業に働きかけるだけではなく、目標を達成するため、例えば製造業の場合は加工方法の変更のセミナーを開催するなどの取組をぜひお願いしたい。
- ・ 「情報発信力強化プログラム」にある認知度の指標について、岡山の白桃とかマスカットは東京に多く出荷していると思っていたが、実際には山梨産や福島産が多い。岡山県産の美味しさをアピールするだけでも、相当認知度は変わるのではないかな。
- ・ 中央会では、特別高圧電力使用事業者への支援事業のほか、Uターン就職促進奨学金返還支援事業やおかやま子育て応援宣言事業など県から受託している。引き続き事業者を支援していく。
- ・ 昨年、ダイハツ工業の生産停止に伴い、県内企業が一時帰休したり、日銀短観の業況判断指数が4四半期ぶりに悪化するなど影響があったが、直後の親会社トヨタ自動車の決算発表では、過去最高の生産台数、利益であった。大企業と中小企業では影響のレベルが全く異なっている。
- ・ 女性の得意分野があるので、その活躍の場を提供できるかが非常に大切だ。中央会では女性の会があって、頑張っている女性社長もいるので参考にできるところは多い。
- ・ M&Aは手数料が高い。自動車部品産業は国内生産が増えない状況なので、廃業が結構ある業界だが、手数料を下げないとM&Aはなかなか実現していかない。

【知事】

- ・ 認知度の指標について、以前は県民の愛着度の指標もあったが現在は使用していない。認知度を上げていけるよう頑張っていく。
- ・ ダイハツの生産停止は、以前の三菱自工ほどではなかったが、県内企業にも影響があっ

た。

- ・中央会ではレディース中央会という組織があり、女性が元気に活躍していることを承知している。大変頼もしく思う。
- ・M&Aの手数料が高いことは承知している。

【経済団体】

- ・商工会は都市部にも中山間部にもあり、それぞれ地域課題を抱えている。コロナ後では廃業も多い。特に中山間地域では、人口減少、高齢化に加え、後継者不足による事業承継問題などが大変深刻化している。中山間地域における中小企業、小規模事業者の現状と支援強化等について、5点お話しする。
- ・1点目は、中小企業の事業承継支援の強化である。経営者の高齢化や後継者不足が深刻化をしており、国も県も力を入れているが、事業承継が思うように進まない。M&Aもあまり進んでない。後継者育成のための研修、事業承継を円滑に進めるために資金調達支援、経営ノウハウの伝承など、多角的な支援体制の継続は必須だ。
- ・2点目は、高齢者の就業支援の強化である。中山間地域は働き手不足で、若い労働力は不足しており、その結果地域経済の活性化が阻害されている。高齢化は大きく進んでいるが、高齢者の経験や知識は地域社会にとって貴重な財産でもあることから、それらを生かせるような、新たな雇用機会の創出や、高齢者向けのスキルアップ研修、高齢者が働きやすい環境整備などの支援策を充実させてもらいたい。
- ・3つ目は、地域資源を活用した新産業の創出である。中山間地域の中小企業は都市部と比べ、情報や人材、資金面で不利だ。一方で、中山間地域には豊かな自然、伝統文化など魅力的な地域資源がたくさんあることから、デジタル化や販路開拓の支援に加え、地域特性を生かした新商品の開発、後継者不足解消に向けた支援など、中山間地域特有の課題に特化した支援策を充実させることで、企業の稼ぐ力強化にも繋がる。
- ・4つ目は、中山間地域における新たな産業集積の形成である。中山間地域では、企業誘致や投資促進が難しい。しかしながら、地域資源を活用したビジネスモデルや地域住民の生活と密接に関わるサービス業など、強みを生かした産業を集積することで、新たな雇用を生み出し、地域経済の活性化を促進できる。具体的には、中山間地域に特化したイノベーション施設の設立なども考えられる。
- ・5つ目は、中山間地域への人材流入促進である。中山間地域への人材流入を促進するため、テレワークの導入支援や地域の魅力を発信する移住促進政策などの取組も必要だ。

【知事】

- ・商工会は地域に密着して生活を支えているが、国全体、岡山県全体の問題がより濃縮して中山間地域に現れている。県全体で対策を考え、中山間地域に応用しなければいけない。
- ・県民の生活と密着をしているからこそ、中堅企業、大企業と違う意味で頑張ってもらいたい必要がある。これからも県庁と相談しながら頑張ってもらいたい。

＜閉会挨拶＞

【経済団体】

- ・日本は本当に大変な時期にある。長く少子化が指摘されているが、すぐには変えられない。抜本的な改革が必要だ。県や市の地方行政の仕組みも変わらないといけない。道州制に先駆けて、岡山県と香川県と鳥取県が一緒になってはどうか。

【知事】

- ・今の日本に閉塞感が漂っているのは確かだ。先進国がいろいろと改革した中で、日本は中途半端だったと言われている。これからどうするのか、本当に真剣に考えていかなければいけない。ぜひ我々自身で解決する努力を進めていきたい。
- ・県庁の中からものすごいいアイデアが出る可能性はそんなに高くない。皆さんからもアドバイスをもらいながら、もう少し議論の場を広げることも考えながら、これからも努力を続けていきたい。